

熊谷市政、始動



4月23日に執行された市長選挙で、登米市長に選ばれた熊谷盛廣市長。合併から13年目を迎え、歳入の減額、人口の減少、急速な少子高齢化など、本市には多くの課題が山積しています。

この先、4年間の市政のかじ取りには、大きな期待と責任がかかっています。

6月8日、6月定期議会にて熊谷市長が述べた所信表明を中心に、市長が目指すまちづくりの方針をまとめました。

4月23日に執行された登米市長選挙で、多くの市民の皆さまをはじめ、各方面から力強いご支援をたまわり、登米市長としての重責を担うこととなりました。あらためて、その責任の重大さを強く感じているところですが、市民をはじめ、各方面の期待に応えるべく、市政運営に全力を傾ける決意であります。

私は、今回の選挙で一貫して、市民と対話し、その視点に立った行政運営を訴えてきました。市内をくまなく歩き、大勢の人たちと出会い、さまざまなお意見を伺い、あらためて、対話の必要性と重要性を再認識しました。

これからもこの経験を基に、市民皆さまの意見を市政

に反映させたまちづくりを推進してまいります。

私なりに合併12年を総括すると、市民の皆さまが期待する合併効果が感じられないというところ、市の現状に大きな閉塞感・停滞感を抱き、将来に漠然とした不安を抱いていると感じております。

これは、少子高齢化の急速な進展が、最大の要因と思われれます。少子高齢化や人口減少は、市の将来の財政運営に大きな影を落とすこととなります。健全財政の堅持を柱とした市政運営が、何よりも必要であると考えております。

市政運営は「市民が主役」という認識を持ち、重要政策の決定は、プロセスの公開を原則として進めていきます。市

民の声なき声に耳を傾ける姿勢を持ち、市政発展・住民福祉の向上・市民生活の安全安心を基本とした、まちづくりを進めてまいります。

その上で、議会と協調、切磋琢磨し、市民一人一人がしっかりと生きていける政治を進めていきます。市民のための行政を成し遂げる決意と覚悟を、私自身はもとより、職員と共有し、市政運営に当たってまいります。

これからの登米市が「地域の歴史、伝統、文化を大切に」した特色のあるまち、「さらに「次世代を担う若者たちが集い、地域がふれあい、笑顔があふれるまち」に発展するまちづくりを推進してまいります。

熊谷盛廣市長

PROFILE◎くまがい・もりひろ

1951年津山町横山生まれ。慶應義塾大学法学部（通信課程）卒。津山町社会教育委員などを経て2002年12月津山町長に就任した。07年4月宮城県議会議員に。妻真知子さん、長男と3人暮らし。津山町横山字上の山在住、66歳